

電磁波に負けない体を手に入れる

その他の予防医学と豆知識

アメリカの CNN のトーク番組で有名な「ラリーキングライブ」で米国有数の医学研究機関であるピッツバーグ大学医学部癌研究所所長らによる携帯電話と脳腫瘍の関係について 2 回にわたる特集が生まれ反響を呼んでおります。この番組では携帯電話安全派、危険派、中立派などの専門家を招きラリーキング氏が仲介役となり論争を繰り広げたものです。きっかけは、米国でも有名な事件、OJ シンプソンの殺人疑惑やマイケルジャクソンの児童性虐待疑惑の裁判で圧倒的な不利な状況でも無罪を勝ち取ったとして有名な米国きっての凄腕弁護士のジョニーコ克蘭氏の脳腫瘍で死亡したこと。

彼の主治医である脳神経外科部長のキースブラック博士は脳腫瘍との関連があると断定することは難しいが、10 年間にわたり、1 日 1 時間の携帯電話電磁波暴露で脳腫瘍を発生するリスクが 3.7 倍増加するというヨーロッパの研究を報告しております。一方豪国のキャンベラ病院神経外科医のヴィニクラナ博士は、携帯のリスクは脳腫瘍にとどまらないと主張、タバコやアスベスト以上に危険かもしれないと警告を発しています。クラナ博士はここ 16 年で 14 の賞を受賞している能力を評価されている医師です。「携帯電話の使用とある種の脳腫瘍との関係を示す証拠の量は多く、増え続けている。このことはこの 10 年で確実に証明されるだろう。今すぐ抜本的な対策を打たないと、脳腫瘍患者が 10 年間で世界的に増加するだろうが、その時には手遅れになっているだろう」と訴え続けております。これに対して英国などの業界団体は「一個人の論文に過ぎず、WHO、他の 30 以上の論文と全く反対の結論が示されている」として反発しております。番組では賛否両論で結論は出ませんでした。直接携帯電話を耳につけて使用するのではなく、イヤホンマイクを使うのが望ましいという立場では一致しておりました。米国民の約 1 割は化学物質過敏症もしくは電磁波過敏症といわれております。日本ではほとんど聞かれることのない病気ですが、私のところにも今までで 1 人だけ、電磁波過敏症を発症した患者様がいらっしゃいます。米国ダラスには環境医療センターという電磁波過敏症を専門に治療する病院があります。そこで治療効果を上げている方法は 1 つだけですが、それは単なる栄養学。つまり必要な栄養素がきちんとした食材から身体が要求するだけ供給できていれば、極論病気に負けないという予防医学的な考え方です。電磁波が危険なのか、安全なのか白黒はまだ当分先でしょう。しかし、外国では危険かもと言われているものが日本では安全となっている。日本という国の安全をどれだけの方が信じるのか。黒と断定されてから対応して間に合うのか。やはり予防原則として対応する。国民は電磁波を受けても負けない身体を作っていくことが重要ですね。



医療法人 照燈会

あかね台 眼科脳神経外科クリニック

Akanedai Clinic of Ophthalmology and Neurosurgery